巻頭特集

みのおキッズシアター with 末成由美

今や、箕面の夏の風物詩となった「みのおキッズシアター with 末成由美」。大人たちの熱意と子どもたちのエネルギーが創り上げるこの舞台は、毎年始まりと終わりを迎える。来たる第14弾公演の裏側を取材した。

夏の終わりに幕が上がる、この地に根ざした独自の文化

8月末、『箕面市立メイプルホール』の大ホールで、子どもたちが眩い輝きを放つ2日間がある。2006年から続く舞台、「みのおキッズシアター with 末成由美」（以下、同公演）だ。市民主体の文化活動を支援する『公益財団法人 箕面市メイプル文化財団』が、子どもたちに〝表現の楽しさ〟、〝舞台づくりの楽しさ〟を経験してほしいとの思いから始めた同公演。その開催は途絶えることなく、14回目となる今年の公演も、もう間もなくとなった。

出演するのは、公募により集まった小学3年生～高校3年生の子どもたち。毎年、「役者」と「ダンサー」それぞれ、経験を問わず募集している。そのため、顔ぶれや人数はもちろん、舞台経験の有無とその経験値も様々だ。更には役や台詞、ストーリーも、集まった子どもたちの個性に合わせて創り上げていくため、毎年オリジナルの、それぞれの魅力溢れる舞台となる。

※第13弾『花フブキよ、永遠に！』編の様子

子どもも大人も、初心者もプロも一心に、力の限りを尽くす3カ月

今年は役者21名、ダンサー6名が集まり、6月から約3カ月に渡る稽古が始まった。脚本・演出を務める小寺弘之さんが演技の指導を、現役ダンサーで振付家でもある生駒里奈さんがダンスの指導・振付を行う。第1回目から変わらずこの舞台を創り上げ、見守ってきたお2人。舞台経験が全くない子もいる中、共通して大切にしていたのは子どもたちのエネルギーだ。ダンスの基本練習では「もう一歩前に」、「もう一息伸びて」といった言葉を何度も口にしていた生駒さん。「日々少しずつでも〝進歩する〟ということを意識してもらうため」なのだそう。小寺さんも、声が尻すぼみになってしまった女の子に対して「この前はもっと出ていたから、もう1回頑張ってみよう」と、その子の〝最大限の力〟を引き出そうとしている様子が印象的だった。役やストーリーを子どもたちの個性に合わせて創るのも、それぞれが持っているエネルギーの全てを本番にぶつけてほしいから。「子どもたちが本来持っているものをストレートに、楽しみながら表現できるのはこの形なのかなと」（小寺さん）。

脚本・演出 **小寺弘之** さん

俳優、脚本、演出など、多方面で活躍。「芝居は客観性が大事」と、簡単な台詞のやりとりでどう感じたか、1人ひとりに聞き、優しく説いていた

振付 **生駒里奈** さん

レッスンスタジオ『atelier toi et moi』代表としての顔も持つ。バレエやジャズ、モダンなどを織り交ぜ、「情熱次第で一人ひとりが輝いて見える振付を目指しています」

俳優
末成由美 さん

「ここでの子どもたちの目まぐるしい成長ぶりは、私にとっても良い刺激になっております。今年はどんなお芝居になりますやら。どうぞご期待くださいませ」

そしてもう1人、第1回目から出演し、同公演の大黒柱とも言える存在が、『吉本新喜劇』に入って45年のベテラン俳優・末成由美さんだ。舞台上では子どもたちを支え、見守る末成さんだが、稽古場では同じ板の上に立つ役者同士。子どもであっても甘やかすことは一切ないという。「舞台には他にも、俳優の都築 俊さんと猪岡千売さんが登場し、公演を支える裏方にも、各方面のプロが集まって必死にやっています。各自が持っている力を最大限に持ち寄って1つのものを創り上げる。それが舞台の醍醐味でもあると思っています」と、小寺さん。初公演から13年が経った今では、大学生・社会人となった卒業生たちも『キッズ卒業サポートチーム』として稽古の手伝いに訪れる。そんな大人たち、プロたちの本気の姿勢が子どもたちを躍動させ、一夏の公演を生み出しているのだ。

本番は明るく、楽しく！笑って、感動する公演を

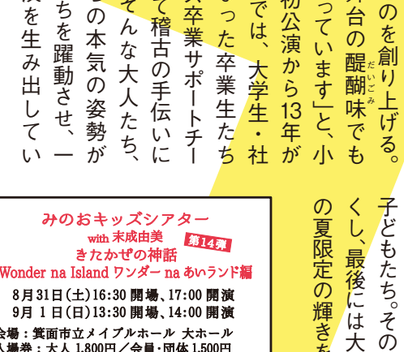
思うようにいかないもどかしさや悔しさ、反対にうまくできた時の達成感など、演じる時、踊る時、自分自身と向き合う中で感じることはたくさんある。連続出演となるメンバーは「去年出し切れなかった分、今年はリアクションを大きくする」（中2・出口万貴さん）、「今までと少し違う大人っぽい演技がしたい」（中3・中務嵩大さん）と、リベンジや挑戦に燃えていた。「色々な気持ちを知って、最後はのびのび舞台を楽しんでほしい。そうしてやり切った経験が、今後の人生、生きていく中でのヒントになれば…」。小寺さんが思いを馳せるのは公演の先、この舞台を経験した子どもたちの未来だ。物語も、楽しい演出を盛り込みつつ、命のこと、友達・家族のこと、一生懸命やること、そんな人生における普遍的なことを軸に考えているという。

「最高の舞台を観せたい！」と、意気込む子どもたち。そのエネルギーで観る者を熱くし、最後には大切な何かを心に残す…この夏限定の輝きをしかと見届けたい。

稽古場を取材！

役者はしっかりと声を出すところから。ダンサーは踊りの基本となる動きを修得中。子どもたちに、舞台づくりの楽しさや公演への意気込みについても聞いてみた。

〈役者〉

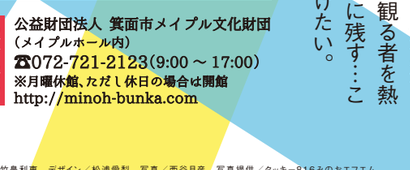


舞台づくりの楽しさは？

“演技をする際に、みんなと「繋がっている」と感じることがあり、その年齢を超えた一体感に気付いた時に楽しいと思います。（高2・三輪明日香さん）”

“練習を何回もするので、達成感がすごくあります。それに、お客様から「感動して泣いた」、「おもしろかった」と言われると、とても嬉しいです。（中1・影山麟太郎さん）”

〈ダンサー〉



意気込みをどうぞ！

“失敗しても諦めず、観に来てくれた人に最高のダンスと笑顔を見せたいです。（小4・辻 姫菜乃さん）”

みのおキッズシアター with 末成由美 第14弾
きたかぜの神話 Wonder na Island ワンダー na あいランド編

8月31日（土）16:30 開場、17:00 開演
9月 1日（日）13:30 開場、14:00 開演

会場：箕面市立メイプルホール 大ホール
入場券：大人 1,800円／会員・団体 1,500円
（全自由席） 18歳以下 600円／会員・団体 500円

※団体は10名以上 ※3歳以下で席が必要ない場合は無料
※入場に際し、車椅子を利用、または介助者が必要な場合は、チケット購入前に『箕面市立メイプルホール』または『グリーンホール』にお申し出ください

【発売所】箕面市立メイプルホール、グリーンホール、西南生涯学習センター、東生涯学習センター、箕面文化・交流センター

取材協力
公益財団法人 箕面市メイプル文化財団
（メイプルホール内）
☎072-721-2123（9:00～17:00）
※月曜休館、ただし休日の場合は開館
http://minoh-bunka.com

文／竹鼻利恵　デザイン／松浦愛梨　写真／西谷月彦　写真提供／タッキー816みのおエフエム